

2025年(令和7年)度

特定非営利活動法人 子どもの森

総会議案書



四季をまるごと体験 e c o スクール (開校) 14期生

日 時：2025年4月20日（日）9時00分～

場 所：もり まなびや
森の学舎

総会次第

1. 開会のことば
2. 議長選出
3. 議事録署名人任命
4. 資格審査報告
5. 報告事項
 - I. 2024年度活動経過報告
 - II. 、、活動決算報告
 - III. 監査報告
6. 議案
 - I. 2025年度活動方針（案）
 - II. 、、活動計画書（案）
 - III. 役員改選（案）
7. 議長降壇
8. 閉会のことば

総会	日時	場所
設立総会	平成15年7月12日（土）13:00	子どもの森事務所
第2回通常総会	平成16年4月15日（木）10:30	子どもの森事務所
臨時総会（第3回）	平成16年11月19日（金）19:30	クリエイティブセンター門川
第4回通常総会	平成17年5月8日（日）10:00	門川町商工コミュニティーセンター APIO
第5回通常総会	平成18年4月22日（土）18:00	門川町中央公民館
第6回通常総会	平成19年5月20日（日）16:00	ガーデンベルズ延岡エメラルドの間
第7回通常総会	平成20年5月17日（土）10:00	（仮称）森の学舎（旧西門川小学校松瀬分校）
第8回通常総会	平成21年4月25日（土）10:00	森の学舎
第9回通常総会	平成22年4月25日（日）10:00	森の学舎
臨時総会（第10回）	平成22年10月13日（水）19:30	クリエイティブセンター門川
第11回通常総会	平成23年4月24日（日）9:30	森の学舎
第12回通常総会	平成24年4月22日（日）9:30	森の学舎
第13回通常総会	平成25年5月6日（月）9:30	森の学舎
第14回通常総会	平成26年4月27日（日）9:30	森の学舎
第15回通常総会	平成27年4月29日（水/祝）9:30	森の学舎
第16回通常総会	2016年4月29日（金/祝）9:30	森の学舎
第17回通常総会	2017年4月29日（土/祝）9:30	森の学舎
第18回通常総会	2018(平成30)年4月22日（日）9:30	森の学舎
第19回通常総会	2019(平成31)年4月21日（日）9:30	森の学舎
第20回通常総会	2020(令和2)年4月26日（日）9:00	森の学舎
第21回通常総会	2021(令和3)年4月25日（日）9:00	森の学舎
臨時総会（第22回）	2021(令和3)年6月27日（日）13:00	森の学舎
第23回通常総会	2022(令和4)年4月24日（日）9:00	森の学舎
第24回通常総会	2023(令和5)年4月23日（日）9:00	森の学舎
第25回通常総会	2024(令和6)年4月27日（土）9:00	森の学舎

報告事項Ⅰ. 2024年度活動経過報告

1. 事業の成果

- 5 ① 環境プログラム（春を楽しもう）を開催することで、里山等の自然体験交流と自然環境を理解してもらうための啓発活動ができた。
- 10 ② 県北地域の親子が、10ヶ月間を通して自然環境を考える体験型環境学習（四季をまるごと体験 e c oスクール）で、より深く多面的に自然環境を理解してもらう啓発活動ができた。
- 15 ③ 耕作放棄の田んぼを復活させて田んぼの働きを戻し、里山の自然景観を守り、そして、大切なものがたくさんあり存在する魅力や価値を後世に繋ぐ活動ができた。
- 20 ④ 環境文庫（森の学舎）にて、森の学舎の活用と環境問題全般を学習できる場を提供することができた。
- 25 ⑤ Webページ、Facebook と Instagram により、活動の情報発信と環境問題の啓発活動ができた。

2. 事業内容（特定非営利活動に係る事業）

15 (1) 農林漁業などの産業体験や里山等の自然体験交流事業

① 四季をまるごと体験 e c oスクール（第14期）

20 食卓に並ぶパンが、麦畑作り・小麦粉作り、塩・バター・酵母、パン焼きまでの一連の作業を通して、たくさんの人の手を経て作られるのを知り、収穫した麦から自分たちでパン焼きをすることで食べ物の大切さを実感してもらえたと思います。また、輸入食材でなく地域で作られる食材の方が地球環境に低負荷であることを知り、生き物調べ、河川清掃を通して、自然環境を大事にする心を、体験を通して学び、それぞれ自分ができる e c oなことを考えてもらうことができました。

25 ・実施場所：森の学舎、e c oスクール麦畑、森の学舎周辺、五十鈴川

・参加者：12人（内小学校3年生～6年生は8人）

30 ・参加者学校：緑ヶ丘小学校、櫛北小学校、南方小学校、日知屋東小学校、富高小学校、五十鈴小学校

・スタッフ：5人

・後援：宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市教育委員会、日向市教育委員会、門川町教育委員会

35 ・助成等：子どもゆめ基金

・内容：地域の小学生とその保護者に対して、四季を通した自然体験や農業体験から自然の大切さを理解し将来の自然環境の守り手に育つために、10ヶ月の期間を通して同一の参加者で下記のプログラムを実施しました。

日 時	参加者 (子ども)	スタッフ	プログラム
第1回(開校) 5月18日 9:30-15:00	10 (7) 見学者1	4	開校式 ・学校名や学年、活動に参加した目的などの自己紹介。 ・初対面である参加者同士が早く仲良くなるためのネイチャーゲーム。 麦刈り ・前年度に種まきをして育った麦の刈りとり。 ・刈りとった麦の稲架かけ。 ※麦刈りが早く終わったので川遊びを行って解散。

第2回 5月25日 9:30-15:30	9 (6)	4	脱穀・風選 ・第1回で刈りとった麦を足踏む式脱穀機で脱穀。 ・脱穀した麦のもみ擦り。 ・唐箕を使っての脱稃（だつぶ）。 ※計画では麦畠用たい肥作り（ダンボールコンポスト）を予定していたが、脱穀が計画より多く時間を要したので、麦畠用たい肥作りは、次回に実施することにした。
第3回 6月29日 9:30-15:20	10 (7) 見学者1	4	麦畠用たい肥作り ・第6回におこなう麦畠作りで使用する堆肥作り。（ダンボールにピートモス等の基材を入れ、ゴミの減量化と堆肥としての食べ物の循環、家庭での堆肥の作り方管理を学ぶ。） ・第4回の河川清掃で使用するイカダ製作。
第4回 7月23日 9:30-15:30	11 (7)	5	河川清掃 ・森の学舎の前を流れている五十鈴川を、第3回で製作したイカダに乗っての河川清掃。 生きもの調査、川あそび ・箱メガネを使って、川虫や蝦・魚を網で捕り、川岸に生息している生き物のパネルを用意して、捕った川虫等の名前を覚える。川虫等は、名前を確認したら川に放す。 ・アメンボの旅（両手両足を広げ上向きなって川を流れる）。 ※河川清掃が計画より30分早く終了したため、生きもの調査後に川あそびを追加した。
第5回 9月7日 9:30-14:30	6 (5)	4	昆虫観察・撮影 ・森の学舎周辺の土手や田んぼ畠で、指導者から昆虫の名前や生態等の説明を受けながら、昆虫採集（当プログラムでは写真を撮ったら直ぐに自然に戻す）や昆虫観察（必要に応じては昆虫を詳しく観察できるレンズ付きガラス容器に入れ）、昆虫写真撮影。 ソーラークッキング ・太陽光は集めると高温になること（目玉焼きで実験）を知り、CO ₂ の発生が0%であることに気づく。CO ₂ の発生は、地球の温暖化防止には、重要なことを講話し、省エネの生活をするように意識させる。
第6回 11月16日 9:30-13:30	3 (2)	5	麦畠整備 ・畠の耕作 ・ダンボールコンポスト堆肥も一緒に耕うん 麦蒔き ・麦種を蒔く ※麦畠の耕作法を変更（麦蒔きの筋に溝を掘り、枯れ草や藁を埋める、事前に刈った草は畠に放置していたので草取りに掛ける時間が少なかった）したので予定より早く終了した。 ※子ども単独参加の迎えが来るまで、スタッフが付き添って子どもたちは川あそびをした。
第7回 12月14日 9:30-15:30	6 (5)	4	塩作り ・海水を簡易釜戸で沸かして水分を蒸発させ塩を採取。塩づくりの副産物であるにがりも採取。 ・採取した塩をフライパンで炒めて乾燥。 SDGs環境学習 ・海の汚染の8割は陸地からの影響であり、二酸化炭素や農業及び工業排水、未処理の下水や油、栄養塩類、堆積物、海洋ごみなどが陸地から海に流れ込み、悪影響を与えていることを学習する。 麦踏み ・第6回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏みを行う。

第8回 1月18日 9:30-15:30	10 (7)	4	<p>酵母作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品瓶に、パンで必要となる酵母を仕込む。（食品瓶は自宅に持ち帰り自宅で酵母を育てる） <p>S D G s 環境学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸地の生物多様性があるから酵母菌が多種に存在することを切り口とし、生態系の保護と回復、砂漠化への対策と森林の保護などを学習する。 <p>小麦粉作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回で脱穀した麦を石臼で挽いて小麦粉にする。 <p>清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石臼での麦挽きで汚れた室内と石臼の掃除。 <p>麦踏み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第6回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏みを行う。
第9回(閉校) 2月15日 9:00-16:00	9 (6)	5	<p>バター作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パン生地に練りこむバターを、生クリームと牛乳で作る。 <p>パン作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作った塩と挽いた小麦粉と作ったバターでパン生地作り。 ・1次発酵を済ませて、想いおもいの形にパン形成。 ・パン焼きする順番に2次発酵して釜でパン焼き。 ・パン焼きの順番まで、感想文書き。 <p>閉校式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焼いたパンを試食。 ・修了証の授与。

他に、スタッフが各回に実施する内容の下見や準備等を下記の通りおこないました。

日付	スタッフ	内 容
5月11日 協力1	4	麦畠の草取り、グランドの草刈りと室内清掃
5月19日	3	唐箕の清掃とメンテナンス、足踏み脱穀機と千歯こきの清掃と設置
7月13日	4	川への降道の草刈り、イカダ下ろし竹滑車の設置、川からのイカダ上げ登道の整備、ボードの準備
9月1日	2	お地蔵さんの森の壊れた樹木プレートの修理と歩道の整備等 ※雨天代替えプログラムでお地蔵さんの森での樹木観察するため
9月6日	1	明日昆虫観察をする箇所の安全確認、観察できる昆虫を確認 ※指導者の新開さんと一緒に
11月9日	3	麦畠の事前耕うん
11月23日	2	海水汲み

予定していた参加者は、子ども15人と保護者10人でしたが、最低参加者子ども10人が達成できませんでした。

② 休耕田復元プロジェクト

耕作放棄の田んぼを復元させて田んぼの働き（作物が育ちやすい土作り、水をきれいにする、上流の森林の豊かな資源の有効活用、周りの気温や湿度を守る、地下水の量を一定に保つ、洪水や土砂崩れを防ぐ、いろいろな生物が住む「家」の働き）を戻し、里山の自然景観を守り、存在する魅力や価値を後世に繋いで行く活動です。

2021年度から2年間、松瀬地区の休耕田を田んぼに戻してきましたが、2023年度は田んぼの持ち主が田んぼを貸すことを拒んだため、2024年度から取り組む予定だった北郷黒木地区の休耕田を、1年前倒しで2023年度から復元しました。北郷黒木地区の休耕田も松瀬の休耕田と同じように、セイタカアワダチソウ等の背の高い雑草が増殖はじめ、著しく自然景観が悪くなっています。2023年度に復元した田んぼ（田植え面積約150m²）の他に、同じ面積の田んぼを復元しま

した。そして、無農薬で人の手作業による米作り体験の場にすることができました。前年度と同様に参加者を募って、田植え、草取り、稻刈り、脱穀、そして餅つきをして食べるまでの節目の作業を体験実施して行きました。

約3畝(約300m²)となり、2023年度に復元した田んぼには、もち米(マンゲツ)を、今回復元した田んぼには、うるち米(ヒノヒカリ)を田植えました。

2023年度までは、後ろ向きに田植えをしていましたが、今回は前向きに、30cm間隔で苗を1本ずつ植えていきました。小学校就学前の幼児もがんばって田植えをしてくれました。

また、田んぼを囲みようにヒマワリが咲くように、ヒマワリの種も蒔きました。

復元させた田んぼで環境学習などを実施するため、田植え面の周りにある畔を大きめに復元しました。土を掘って畔を作るのは、かなりの重労働になるので、マイクロショベルカーを使用しました。

- ・実施場所：北郷黒木地区の耕作放棄の田んぼ
- ・助成等：高原環境財団「子供たちの環境学習活動」
- ・参加者：一般参加者17人(子供含み)、ボランティアとスタッフ計8人

実施日と内容

日付	参加者	スタッフ・ボランティア	内 容
5月1日、2日		延べ7	<ul style="list-style-type: none">・昨年度復元した田んぼの草刈と畦修理・今年度復元する休耕田の掘り起こしと畦の土盛を実施(マイクロショベルカーは使用せずにスコップでの人力作業)・原野(果実園予定)の草刈
6月1日、2日		延べ10	<ul style="list-style-type: none">・昨年度復元した田んぼを、管理機(ミニ耕うん機)を使って田起こし・今年度復元する田んぼは、マイクロショベルカーで土掘り⇒畦の土盛⇒管理機で耕うん⇒表面をレーキで平らに整地・昨年度復元した田んぼと今年度復元する田んぼの水張り
6月15日		4	<ul style="list-style-type: none">・苗間隔30cm×30cmで植える目印となる玉紐を設置
6月16日	12	7	<ul style="list-style-type: none">・もち米「マンゲツモチ」と「ヒノヒカリ」を田植え・田んぼの囲みにヒマワリの種蒔き
7月3日		2	<ul style="list-style-type: none">・田んぼ畔と周辺の草刈り
7月7日	12	5	<ul style="list-style-type: none">・田車、除草器、簡易除草器を使っての草取り・フィールドビンゴを田んぼで実施・田んぼの役割のはなし
7月21日	10	7	<ul style="list-style-type: none">・田んぼの藻を除去・田車と水田中耕除草機、簡易水田中除草機を使って草取り・田んぼの生えているコナギを調理(スタッフで天ぷら・和え物・炒め物・焼きそば)して、参加者とボランティアの全員で食べる・春の田んぼのはなし
8月3日	3	5	<ul style="list-style-type: none">・田んぼの生きものを探す環境調査・田の草取り(すべて終わりませんでした)・夏の田んぼのはなし(梅雨明けの田んぼ、田んぼでの食物連鎖)
8月25日	13	4	<ul style="list-style-type: none">・手作業による草取り・案山子作りと設置
10月5日		5	<ul style="list-style-type: none">・はさ掛けの準備・畔と田んぼ周辺の草刈り
10月13日	15	7	<ul style="list-style-type: none">・稻刈り⇒稻架(はさ)かけ

11月3日	7	6	・秋の田んぼの学習 ・脱穀機2台と唐箕使っての脱穀
12月1日	14	5	・収穫祭 (餅つきと餅まるめ後、海苔・きな粉・大根おろし・あずき・栗あんと醤油・蜂蜜・ポン酢等と一緒に餅を食した)
3月15日		3	田んぼの高くなっている箇所をマイクロショベルカーで掘削し、掘りあげた土は、周辺の畦になる箇所に盛土

③ 椎茸ホダ木の管理（ほだ場作業）

2023年度に、森づくりボランティア協議会でコマ打ち（植菌）した原木（約15本）から、少量の椎茸が発生し収穫をしました。収穫した椎茸の一部は、春を楽しもうで味噌汁の具材として使用しました。

（2）中山間地の荒廃した里山の環境保全再生事業

① 子どもの森1号地（杉と広葉樹の混交林）

2006年3月に400本を植樹した子どもの森1号地は、苗木も大きくなり下草刈の必要がなくなり、センダンの樹高は3mをはるかに超え、その他の樹木も人間の背丈よりもすいぶんと高くなっています。現在は、自然本来の再生能力に委ね人による手入れを行っていません。

② GOCANの森（門川高校演習林災害跡の再生）

門川高校生と協働して実施した森林の再生活動（2007年3月に植樹、2013年3月に補植樹）をした門川高校実習林の苗木が大きくなり下草刈の必要がなく、ケヤキの樹高は3m以上になり、ヤマザクラは花を咲かせています。現在は、子どもの森1号地と同様に自然本来の再生能力に委ね人による手入れを行っていません。

③ 妖精の森（放置竹林の広葉樹林への復元活動）

手入れがされず放置されている竹林（森の学舎裏の竹林）を、雑木林に再生し人や動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能の維持増進を図るために、2009年度から継続して竹の伐採を続けてきました。これまで伐採した竹林の面積は約0.2haを超える予定していた範囲の伐採は、2016年度に終了しています。2024年度は、3月8日に伐採跡地に生えていた竹の伐採を、会員3名で実施しました。

④ お地蔵さんの森（森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動）

放置されている里山を整備して体験型環境学習の広場作りを、2019年から実施しています。森林の体験型環境学習のため広場を整備し、水辺の体験型環境学習で活用するために松瀬川（五十鈴川支流）への昇降道も整備しています。

昨年度は、四季をまるごと体験 ecoスクールで使用するために、樹木プレートの修繕を実施しました。

（3）地域の自然環境などを理解してもらうための啓発活動

① 野草を活用した自然体験交流（春を楽しもう）

自然を親しみ、自然の豊かさ・大切さを学ぶ活動です。山菜・野草観察を食べる分だけ摘んで参加者とスタッフと一緒に調理していきます。自分の足元から春を感じ、自然環境を考えていきます。

野山に限らず身近なところにも食べられる野草が自生していることを知り、緊急時でも食料の確保ができることも体感します。

昨年度と違い晴天で暖かい中、ゆっくりと観察し、参加者全員で調理を進めることができました。

- ・活動の目的：人間を含む生き物すべてが自然の中で育まれているので、地球環境を大事にする気持ち

を高めて欲しい。そのために、春になって野草の芽吹きに触れ自然環境に関心・興味を持ってもらうプログラムとして、野草の収穫と調理して食する活動を実施する。

- ・活動の成果：子どもたちとその保護者が、ふだんの生活では気づくことができない身近かな食べることができる野草の観察と調理して食することを通して、地球規模ではなく自分の足元にある自然の恩恵と大切さを実感できた。そして、自然環境を守るために必要な自分ができることを考えるきっかけづくりができた。自然を大切に守ろうと思う心の芽生えは、子どもたちの健全育成に大きな影響をあたえることができた。

・実 施 日：2025年3月23日

・参 加 者：子ども10人（内幼児8人）、保護者11人、一般：3人

・講 師：成迫平五郎（宮崎県環境保全アドバイザー）※野草観察

　　横山純子（会員、宮崎県環境保全アドバイザー）※野草調理

・ス タ ッ フ：4人

・後 援：宮崎県、宮崎県教育委員会

・助 成 等：子どもゆめ基金

・内 容：野草の観察と収穫、野草調理（餃子、天ぷら、白和え、おひたし、ピザ）

・準備(3/22)：会場になる教室の掃除、竹を活用した手水舎（てみずしゃ）製作、他

（4）地場産業の振興、街づくり、人づくり

① 地域コミュニティーによる耕作放棄地の活用と生活困窮者の支援

食料の生産、共有、消費の方法を考え直す時が来ています。農林水産業は適切に機能すれば、すべての人に栄養豊富な食料を提供し、農村開発を支え環境を守ることができます。

一般参加者や地域住民と一緒にやって耕作放棄された田畠を活用した米作りや野菜栽培などを通して考え、地球環境に負荷をかけないで自分たちにできる取組みへの気づきを促し里山や中山間地域の自然景観を復元し、その魅力を発信させる一環として「休耕田復元プロジェクト」事業を進めています。

・場所：北郷黒木地区の耕作放棄地

・助成：連合愛のカンパ

原野には、体験農園として果樹や野菜を育て収穫するために、アンズ・ビワ・イチジク・アーモンドを植栽しました。農作物の収穫がない状況ですので、活困窮者の支援はできませんでした。

② 古民家再生

地域のサードプレイス（環境学習の教室、日常的に大人や子どもが集まる処、防災時の補助的な避難所、地域の農産物販売所など多様な利用方法があると思われます）として、美郷町北郷黒木にある築116年の古民家を再生し活用するための費用を調達するために、認定NPO法人の申請をしました。

この古民家は、柱や床などがシロアリ被害でよって、家全体が歪んでいます。再生が可能なのかを業者による家屋調査を実施し、再生可能であるとの調査結果がでました。また、前住人がそのままに放置していた荷物や家具のかたづけと、朽ちて崩れていた納屋の撤去も終了しました。2022年から古民家再生を開始できる状態になっています。

しかし、資金の調達ができずに、一昨年度から何もできていません。

③ そらいろのたね

横山理事長が、将来に体験型宿泊体験施設に活用するために2023年に耕作放棄田んぼと一緒に購入した当時築33年の民家を、休耕田復元プロジェクトの学習館として利用しています。また、耕作放棄田んぼは、休耕田復元プロジェクトで活用しています。

(5) 市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業

① 林業大学校の学習支援

美郷町のみやざき林業大学校からの依頼で、11月1日に森の学舎で、林業大学校生を対象に森林環境教育の一環としてネイチャーゲームを実施しました。ただ、この日はネイチャーリーダーの横山理事の声も聞こえない大雨で思い通りの講習ができませんでした。

11月1日に大雨で完結できなかったネイチャーゲームを、2025年2月17日と18日に宮崎県林業技術センターにて再実施しました。

ネイチャーゲームリーダーである横山理事がメイン講師として、横山理事長がサブ講師として出向きました。

(6) 活動の情報発信・啓発のための事業

① SNSの運用

・実施時期：4月～2025年3月

・概要：子どもの森のすべての活動と自然環境啓発等を、月平均2.5回程度のWebページ更新、facebookは年間24回、instagramは年間26回の投稿・情報発信をおこないました。

② 機関紙の発行

発行時期が遅ましたが、A4で12ページの子どもの森通信21号を10月に発行できました。

③ 案内チラシの作成

・実施時期：各プログラムの開催1ヶ月～2ヶ月前

・概要：宮崎県や宮崎県教育委員会等の後援をもらい、それぞれのプログラムの参加者募集チラシを作成し、主に県北の図書館や近隣のスーパー等に置いていただきました。また、Webページからもダウンロードできるようにもしました。他の参加者募集の方法として、SNSの活用と地元新聞社（夕刊デイリー、宮崎日々新聞）への掲載もお願いしました。

四季をまるごと体験eccoスクールの参加者募集チラシは、延岡市・日向市・門川町の教育委員会から後援をもらい、県北一円の小学校の3年生から6年生に、延岡市・日向市・門川町の教育委員会を経由して約7500部を配布しました。美郷町の小学校は、持ち込みをしました。

地元フリーペーパーのen（2025年2月号）に、「春を楽しもう」の広告を掲載しました。

(7) その他目的を達成するために必要な事業

① 黄色いレシートキャンペーン（8月11日）参加者：横山理事長、横山純子理事、加納理事

イオン日向店にて、キャンペーンの普及発展と子どもの森のPRをおこないました。今回でキャンペーンの参加が12回目となりました。支援を続けてもらっている店舗への感謝と、お客様に黄色いレシートを子どもの森に投函してもらい、子どもの森の活動を地域に知ってもらうのが目的です。

レシート金額の1%相当額が、活動のために必要な消耗品などの商品がイオン・グループ店舗において寄贈されます。子どもの森は、2006年から19年間で、約131.6万円を寄贈してもらっています。イオンの黄色いレシートで、子どもの森の応援をしてくださっている皆様に感謝します。

② 森の学舎の整備

森の学舎グランドと周辺の草刈りを、9月28日、29日に、延べ7人の参加者（会員）で実施しました。また、横山理事長が一人で5月と7月、8月にも草刈りをしています。

ピカピカ大作戦（大掃除）を、12月27日、30日に、延べ9人の参加者（会員）で実施しました。

森の学舎を管理運営するために、電気代：40,302円、浄化槽管理費：20,800円、土地賃貸料：114,000円の費用支出がありました。

③ 森の学舎の訪問者

2025年3月29日の土曜日に、結婚披露宴が森の学舎で開催されました。キッチンカーや運動会などの催しがあり約60人位の利用がありました。森の学舎の利用方法である施設解放の事例のひとつとなりました。

5 2022年度は、マルシェの開催で森の学舎を開放しています。

④ 事務局経費

事務局の経費で特に支出の多い項目は通信費です。電話代：21,152円、携帯料金：29,774円、助成金申請など：2,552円の通信費を支出しています。

10 ⑤ ビオトープ

ヘイケホタルが生息しており5月末から6月にホタルが舞うのを見ることができました。地区的集会場の水タンクでオーバーフローした水を引いてきていますので、大雨等が原因で水源からの水が止まり、水が流れてこないことが数回ありました。その都度、水源を見に行ったり、地区的関係者の方に連絡をして対処してきました。

15 3. 寄附金・助成金等

(1) 子どもゆめ基金（国立青少年教育振興機構）

20 ・四季をまるごと体験 ecoスクール（第14期）の事業費431,8千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が60,0千円と助成金388,9千円を受ける予定です。
・春を楽しもうの事業費123,8千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が18,0千円と助成金114,5千円を受ける予定です。

25 (2) 子供たちの環境学習活動（高原環境財団）

休耕田復元プロジェクトの事業費484,3千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が16,5千円と483,0千円の助成を受けました。

30 (3) 連合愛のカンパ

休耕田復活プロジェクトと併用で進めている「地域コミュニティーによる耕作放棄地の活用と生活困窮者の支援」で休耕田復元や原野整備を軽減するためのマイクロショベルカー購入費（1,199,999円）に対して、400,0千円の助成を受けました。他、マイクロショベルカーの定期検査や借入金利息等の費用として37,7千円の支出がありました。

35 (4) イオン黄色いレシートキャンペーン

黄色いレシートキャンペーンの投函箱を、イオン日向店に設置しています。投函されたレシート金額の1%が団体に商品券で寄贈されます。昨年度は、22,2千円の商品券が寄贈されました。

40 (5) ろうきんNPO寄附

預金者が応援したいNPO法人へ、希望する金額を希望する日に、預金者に代わって普通預金口座から寄附先団体の口座に自動振替する制度で、1回の寄附額は100円以上（100円単位）です。3名の方から計12.0千円の寄附がありました。

45 (6) エコニコみやざき協賛金

宮崎日日新聞社が主催して、環境保全に取り組んでいる団体に協賛金を贈呈しています。2025年3月14日に、子どもの森が、50,0千円の協賛金を受けました。

50 (7) 他寄附

横山理事長の各プログラムでの人件費他（35,5千円）と、鵜戸副理事長から13.0千円の寄附がありました。

4. その他

(1) みやざき森づくりボランティア協議会

6月16日に総会が開催されましたが、子どもの森の活動日と重なり、総会への参加ができませんでした。横山理事長は、2023年度から同協議会の副会長に就任しています。

①10月14日に、ロキシーヒル（西都市団地区）で、椿の種収集と前年にコマ打ちした椎茸原木の引き渡し、②2月23日に、森の学舎で、椿油搾りが開催されました。

①椿の種収集と前年にコマ打ちした椎茸原木の引き渡しには、横山理事長と横山理事、②椿油搾りには、横山理事長と横山理事・加納理事・井澤理事・他会員3名が参加しました。

(2) 認定NPOの取得

多額の費用が必要となる活動の資金調達を目的としての認定NPOの取得について、2020年8月28日付けで取得が完了しました。認定有効期限は、2025（令和7）年8月27日までの5年間になっていますので、2025年度は、認定NPOの再取得となります。

認定NPO法人に寄付をすると、寄付額が所得税の寄附金控除になりますので、寄付を集めやすい環境が整っています。

(3) 助成元団体への報告発表

① 連合愛のカンパ

11月25日に、日本労働組合総連合会宮崎県連合会（連合宮崎）による「連合愛のカンパ」の助成式がおこなわれました。横山理事が出席し、贈呈のお礼、労働組合員の助成金原資の拠出に感謝し、次年度以降も活動を継続していきたいと報告発表をおこないました。

助成団体：NPO法人フードバンク日向（継続：3回目）

宮崎・高校生平和活動支援センター（継続：3回目）

NPO法人子どもの森（継続：2回目）

NPO法人ぼくんちへおいでの（継続：2回目）

きらくえんカフェ（新規：1回目）

(5) 理事会

日時	場所	参加理事	内容
4月15日	そらいろのたね	4人	総会議案書の読み合わせ 総会参加者 休耕田復元プロジェクトの申し込み状況 四季をまるごと体験ecoスクールの申し込み状況
5月11日	森の学舎	5人	休耕田復元プロジェクトについて 四季をまるごと体験ecoスクールについて
10月7日	そらいろのたね	4人	次年度活動について ・四季をまるごと体験 ecoスクール ・休耕田復元プロジェクト ・春を楽しもう ・森の学舎整備 ・黄色いレシートキャンペーン協力 次年度活動カレンダーについて
2025年 1月18日	森の学舎	4人	森づくりボランティア協議会の研修について 次年度活動カレンダーの確認 次年度役員について 春を楽しもうについて

※詳細は、Web上の議事録確認。

2024年度事業経過一覧

実施日		活動名	内容/備考
4月	7(日)	会計監査	
	13(土)	黄色いレシート授与	イオン日向店 横山理事長・横山理事
	15(月)	理事会	(仮称)そらいろのたね
	27(土)	総会	森の学舎
5月	1(土)、2(日)	「田んぼプロ」準備	草刈り・草取り、用水と畔づくり等の田んぼ復元作業
	11(土)	「ecoスクール」準備	①の準備(麦刈り)
		理事会	森の学舎
	18(土)	①ecoスクール	開校式、麦刈り
	19(日)	「ecoスクール」準備	②の準備(脱穀農具)
6月	25(土)	②ecoスクール	麦脱穀
	1(土)、2(日)	「田んぼプロ」準備	田植え直前の田んぼ復元作業
	15(土)	「田んぼプロ」準備	①の準備(玉紐設置)
	16(日)	①田んぼプロ	田植え
7月	29(土)	③ecoスクール	イカダ作り、堆肥作り
	3(水)	「田んぼプロ」準備	②の準備(草刈り)
	7(日)	②田んぼプロ	ネイチャーゲーム、草取り
	13(土)	「ecoスクール」準備	④の準備(河川下見)
	21(日)	③田んぼプロ	草とり、コナギ調理
8月	27(土)	④ecoスクール	河川清掃、川の生き物調査
	4(日)	④田んぼプロ	草とり、環境調査
	11(日)	黄色いレシートキャンペーン	イオン日向
9月	25(日)	⑤田んぼプロ	草とり、案山子づくり
	1(日)	お地蔵さんの森	(雨天時に備えて)「ecoスクール」準備
	6(金)	「ecoスクール」準備	⑤の準備(昆虫下見)
	7(土)	⑤ecoスクール	昆虫観察と写真撮影、ソーラークッキング
10月	28(土)、29(日)	森の学舎整備	草刈り
	5(土)	「田んぼプロ」準備	⑥の準備(稻掛け)
	7(月)	理事会	そらいろのたね
	13(日)	⑥田んぼプロ	稻刈り
11月	3(日)	⑦田んぼプロ	脱穀
	9(土)	「ecoスクール」準備	⑥の準備(麦畑)
	16(土)	⑥ecoスクール	麦畑作り
	30(土)	「田んぼプロ」準備	⑧の準備(餅つき道具)
12月	1(日)	⑧田んぼプロ	収穫祭(餅つき)
	14(土)	⑦ecoスクール	塩作り
	27(金)、30(月)	ピカピカ大作戦	森の学舎
1月	13(土)	「ecoスクール」準備	⑧の準備(石臼)
	18(土)	⑧ecoスクール	イチゴ酵母作り、小麦粉作り
		理事会	森の学舎
2月	15(土)	⑨ecoスクール	パン作り、閉校
3月	8(土)	妖精の森整備	竹伐採
	22(土)	「春をたのしもう」準備	
	23(日)	春をたのしもう	

報告事項Ⅱ. 2024年度活動決算報告

2024年度 特定非営利活動に係る活動計算書

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

科 目	金額			備考
I 経常収益				
1. 受取会費				
正会員受取会費	42,000			8人×5,000、特別:2人×1,000
2. 受取寄附金				
受取寄附金	132,725			イオン黄色いレシート、ろうきんNPO寄附金、ニコニコみやざき協賛金、個人寄附
ボランティア受入評価益	572,738	705,463		
3. 受取助成金等				
受取助成金		1,386,518		子どもゆめ基金、高原環境財団、連合愛のカンパ
4. 事業収益				
自主事業収益		167,356		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復元プロジェクト 他
5. その他収益				
雑収入		1,951		預金利息 他
経常収益計			2,303,288	
II 経常費用				
1. 事業費				
(1)人件費				
賃金(有償ボランティア)	293,500			四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復元プロジェクト
ボランティア評価費用	572,738			各プログラム(宮崎県の最低賃金にて評価)
人件費計	866,238			
(2)その他経費				
修繕費	25,224			森の学舎、休耕田復元プロジェクト
諸謝金	57,000			四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復元プロジェクト
印刷製本費	35,663			ecoスクール・春を楽しもうチラシ印刷(業者)
広告宣伝費	42,000			春を楽しもう(en)
旅費交通費	130,218			四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復元プロジェクト
通信運搬費	14,006			四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復元プロジェクト
消耗品費	453,427			四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復元プロジェクト 他
損害保険料	27,736			四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復元プロジェクト
減価償却費	355,244			マイクロショベルカー
その他経費計	1,140,518			
事業費計		2,006,756		
2. 管理費				
(1)人件費				
賃金(有償ボランティア)	0			
人件費計	0			
(2)その他経費				
旅費交通費	8,860			ニコニコみやざき協賛金受け取り 他
通信運搬費	53,478			助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	1,595			単三充電池
修繕費	22,000			ショベルカー特定自主検査
諸会費	3,000			みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	3,200			黄色いレシートキャンペーン協力
租税公課	1,400			印紙(森の学舎契約、助成金申請)
施設管理費	182,302			森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代)
雑費	7,887			昨年度子どもゆめ基金助成金減額
支払利息	15,723			マイクロショベルカー借入金
その他経費計	299,445			
管理費計		299,445		
経常費用計			2,306,201	
当期正味財産増減額			△2,913	
前期繰越正味財産額			1,837,728	
次期繰越正味財産額			1,834,815	

各プログラム:「四季をまるごと体験ecoスクール」「春を楽しもう」「森林整備」「森の学舎整備」

ボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、宮崎県の最低賃金にて計上している。

管理費のボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、計上していない。

2024年度 事業別活動計算書

科 目	ecoスクール	春を楽しもう	休耕田復元 プロジェクト	地域コミュニティによる耕作放棄地の復元	森林整備	森の学舎整備(ビオトープを含む)	古民家再生(そらいろのたね)	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益										
1. 受取会費										
正会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	42,000	42,000	
賛助会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	0	0	
2. 受取寄附金										
受取寄附金	--	--	--	--	--	--	25,525	25,525	107,200	132,725
ボランティア受入評価益	224,820	29,648	223,435		11,424	83,411	--	572,738	16,146	588,884
3. 受取助成金等										
受取助成金	388,993	114,525	483,000	400,000	--	--	--	1,386,518	--	1,386,518
4. 事業収益										
自主事業収益	60,000	18,000	16,500	--	--	--	--	94,500	72,856	167,356
5. その他収益										
雑収入	--	--	--	--	--	--	--	--	1,951	1,951
経常収益計	673,813	162,173	722,935	400,000	11,424	83,411	25,525	2,079,281	240,153	2,319,434
II 経常費用										
(1)人件費										
賃金	129,500	32,000	132,000	--	--	--	--	293,500	--	293,500
ボランティア評価費用	224,820	29,648	223,435	0	11,424	83,411	--	572,738	16,146	588,884
人件費計	354,320	61,648	355,435	0	11,424	83,411	0	866,238	16,146	882,384
(2)その他経費										
修繕費	--	--	20,980	--	--	208	4,036	25,224	22,000	47,224
諸謝金	46,000	8,000	3,000	--	--	--	--	57,000	--	57,000
印刷製本費	27,783	7,880	--	--	--	--	--	35,663	--	35,663
旅費交通費	95,350	3,400	31,468	--	--	--	--	130,218	8,860	139,078
通信運搬費	8,336	5,170	500	--	--	--	--	14,006	53,478	67,484
消耗品費	112,899	21,216	283,952	6,478	0	7,393	21,489	453,427	1,595	455,022
諸会費	--	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
会議費	--	--	--	--	--	--	--	--	3,200	3,200
損害保険料	10,456	4,800	12,480	--	--	--	--	27,736	0	27,736
租税公課	--	--	--	--	--	--	--	--	1,400	1,400
施設管理費	--	--	--	--	--	--	--	--	182,302	182,302
広告宣伝費	--	42,000	--	--	--	--	--	42,000	--	42,000
雑費	--	--	--	--	--	--	--	--	7,887	7,887
支払利息	--	--	--	--	--	--	--	--	15,723	15,723
減価償却費	--	--	--	355,244	--	--	--	355,244	0	355,244
その他経費計	300,824	92,466	352,380	361,722	0	7,601	25,525	1,140,518	299,445	1,439,963
経常費用計	655,144	154,114	707,815	361,722	11,424	91,012	25,525	2,006,756	315,591	2,322,347
当期経常増減額	18,669	8,059	15,120	38,278	0	△ 7,601	0	72,525	△ 75,438	△ 2,913

※ボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、宮崎県の最低賃金にて計上している。



休耕田復元プロジェクト

2024年度 特定非営利活動に係る貸借対照表（2025年3月31日現在）

科目	金額
I 資産の部	
1 流動資産	
現金	73,186
普通預金	1,262,743
未収金	131,518
前払金	5,933
流動資産合計	1,473,380
2 固定資産	
建設仮	379,500
備品	3,284,999
減価償却累計額	△2,573,440
固定資産合計	1,091,059
資産合計	2,564,439
II 負債の部	
1 流動負債	
預り金	29,631
借入金	699,993
流動負債合計	729,624
負債合計	729,624
III 正味財産の部	
基本金	1,837,728
当期正味財産増加額(減少額)	△2,913
正味財産合計	1,834,815
負債及び正味財産合計	2,564,439

2024年度 特定非営利活動に係る財産目録（2025年3月31日現在）

科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金 現金手元有高	73,186	
普通預金 宮崎太陽銀行門川支店	542,332	
普通預金 九州ろうきん延岡支店	711,170	
普通預金 ゆうちょ	9,241	
未収金 子どもゆめ基金	131,518	
前払金 事務局電話代(金子幸一)	5,933	
流動資産合計	1,473,380	
2 固定資産		
建設仮 古民家再生	379,500	
機械及び装置 チップ・シュレッサー(新タイプCE50-W)	253,050	
	チップ・シュレッサー(大橋GS121GB)	1,330,350
	耕うん機(HONDAピアンタ)	102,600
	簡易炭窯(テキT105型)	399,000
	マイクロショベルカ-	1,199,999
減価償却累計額	△2,573,440	
固定資産合計	711,559	
資産合計	1,091,059	
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金 寄附金(予定)	29,631	
借入金 マイクロショベルカ-購入資金	699,993	
流動負債合計	729,624	
負債合計	729,624	
正味財産(注)	1,834,815	

(注) 正味財産は「資産合計」より「負債合計」を減じた金額を記載する。
これが登記すべき「資産の総額」である。

上記財産目録に相違ない。

特定非営利活動法人 子どもの森

監査

佐藤 伸光



報告事項Ⅲ. 監査報告

監査報告書

2024年4月1日から2025年3月31日までの理事の職務の執行に関して、本監査報告書を作成し、以下の通り報告します。

監査の結果

- この法人の会計の方法及びその結果は、相当であると認めます。
- 財産目録は、この法人の財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項はありません。
- 貸借対照表は、この法人の財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項はありません。
- 活動計算書は、法令及び定款に従い、この法人の状況を正しく示していると認めます。

2025年4月13日

特定非営利活動法人 子どもの森

監事 佐藤 伸光



5



森の学舎整備



春を楽しもう

議案Ⅰ. 2025年度活動方針（案）

1. 農林漁業などの産業体験や里山等の自然体験交流事業

5 (1) e c oスクール（パンづくり編）※四季をまるごと体験 e c oスクールの派生

今年度の四季をまるごと体験 e c oスクールは、申請していた子どもゆめ基金からの助成金が不採択となりました。子どもゆめ基金の後期募集に、四季をまるごと体験 e c oスクールの11月から翌年5月までの活動を「e c oスクール（パンづくり編）」として申請したいと思います。申請が採択となれば活動資金ができますので、麦作りとパン作りの活動が可能となります。

10 地域の小学生（3年生以上）及び保護者が、小麦育てとパン作りを通して、自然環境に触れ観察等から学び、小麦栽培の農業体験、自分たちで作った食材料からパン作りを経験します。輸入に頼らなくても食が可能であることを実感し、食べ残しを極力少なくすることや食品の輸入による過大なエネルギーを減少させることで、地球環境への負荷を少なくした生活を実践してもらうための気づきを促します。

15 参加者募集は、過去の四季をまるごと体験 e c oスクールの参加実績から小学校を絞って参加者募集案内を配布することにします。

・参加者（計画）：25人（県北地域の小学生3年生から6年生15人と保護者10人）

・場 所：森の学舎及び麦畑

20 ・助 成：子どもゆめ基金（申請予定）

11月15日(土)《開校（第1回）》9:30～15:00

・開校式：学校名や学年などの自己紹介。初対面である参加者同士が早く仲良くなるためのネイチャーゲーム（はじめまして、色合わせ、カモフラージュ、フィールドビンゴ）。

・畑に溝を掘り、昨年の麦藁や草刈り後の草を埋めていく。

※雨天時：ネイチャー工作（小枝・葉・ドングリ等で工作をして、身近にある自然物で楽しく遊べることを体験する）。

25 11月22日(土)《第2回》9:30～12:00

・第1回で終わらなかった畑づくり（畑に溝を掘り昨年の麦藁や草刈り後の草を埋めていく）。

・筋に沿ってロープを張って麦の種を蒔いていく。

12月13日(土)《第3回》9:30～15:30

・海水を簡易釜戸で沸かして水分を蒸発させ塩を採取。塩づくりの副産物であるにがりも採取。採取した塩をフライパンで炒めて乾燥。

・海の汚染の8割は陸地からの影響であり、二酸化炭素や農業及び工業排水、未処理の下水や油、栄養塩類、堆積物、海洋ごみなどが陸地から海に流れ込み、悪影響を与えていることを学習する。

・第2回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏みを行う。

30 2026年1月17日(土)《第4回》9:30～15:30

・パン作りで必要となる酵母の素（イチゴと砂糖と水）を食品瓶に仕込む。（食品瓶は自宅に持ち帰り自宅で酵母を育てる）

・前年度に脱穀した麦を石臼で挽いて小麦粉にする。

・石臼での麦挽きで汚れた室内と石臼の掃除。

・第2回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏みを行う。

2026年2月14日(土)《第5回》9:30~15:30

- ・パン生地に練りこむバターを、生クリームと牛乳で作る。
- ・第3回で作った塩と、第4回で挽いた小麦粉と作ったバターでパン生地作り。
- ・1次発酵を済ませて、想いおもいの形にパン形成。
- ・パンを焼く。
- ・修了証の授与。

2026年5月23日(土)《閉校(第6回)》9:00~16:00

- ・前年度に種まきをして育った麦の刈りとりと、足踏む式脱穀機で脱穀。
- ・脱穀した麦のもみ擦りをして、唐箕を使って実を分離する。

※雨天時：雨天でない日（1週間後などできるだけ早く）に日程を追加して、麦畠の作業を実施する。

年度を超えた5月23日の閉校(第5回)は、助成対象外となります。

他に、スタッフが各回に実施する内容の下見や事前準備等を下記の通り行います。

- ・海水汲み
- ・石臼と石臼台の水洗い、石臼の目立てと廻し取手と臼上下をつなぐ芯棒の修理
- ・麦畠周辺の草刈り、ネイチャーゲームの下見
- ・脱穀機と唐箕の準備

(2) 四季をまるごと体験 e c o スクールの残活動

今年度は、活動資金調達ができないため年度前半の活動ができません。そのため、麦刈りと脱穀作業を、子どもの森会員を主として実施します。

5月24日(土) 9:00~16:00

- ・前年度に種まきをして育った麦の刈りとりと、足踏む式脱穀機で脱穀。
- ・脱穀した麦のもみ擦りをして、唐箕を使って実を分離する。

※雨天時：雨天でない日（1週間後などできるだけ早く）に日程を延長して、麦畠の作業を実施する。

(3) 休耕田復元プロジェクト

「地域コミュニティによる耕作放棄地の活用」の一環として実施します。

子どもたちは、田植えを含む一連の米作りや、土づくりから始める野菜作りを通して、米作りや野菜作りに対する興味・関心の高まり、年齢の異なる人との交流を持つことにより様々な立場の人との適切なコミュニケーション力の収得、生産や収穫の喜び食料の大切さを実感し米一粒を大切にする意識、農業に関する現代的な課題に関心を抱き、自分なりの考えを持つようになります。他に、田んぼには、オタマジャクシやアメンボなど、都市生活において見かけることがなくなった生物を、田んぼが育む生態系も学ぶための動植物の観察も行います。

一作年(2023年)度と昨年度に復元した休耕田で、継続して米作り活動をしていきます。また、休耕田部分を復元させて田んぼの面積を広くしたいと思います。

耕作放棄地を復活させて里山の自然景観を守り、そして、大切なものがたくさんあって存在する魅力や価値を後世に繋いでいきたい、休耕田を復元させ無農薬で無機械による米作り体験の場とします。

田んぼを復活させ無農薬で無機械による米作り体験の場として、一般参加者を募って、田植え、年4回の草取り、稲刈り、脱穀、そして餅つきをして食べるまでの節目の作業を体験実施して行きます。

田起こし前の用水路の整備と田んぼの草刈り、田んぼの拡張、稻育成中の稗(ひえ)取り等の一連の田んぼ作業を実施します。

参加者募集は、過去の四季をまるごと体験 e c o スクールの参加実績から小学校を絞っての参

加者募集案内を配布することにします。

事業費の助成を申請していますが、不採択となった場合でも「休耕田復元プロジェクト」は実施します。

- 5
- ・参加者（予定）：22人（県北地域の親子）※子ども15人以上
 - ・場 所：北郷黒木の休耕田、そらいろのたね
 - ・助 成（未定）：高原環境財団助成事業
 - ・外 部 指 導 者：※助成が採択となった場合に、昆虫写真家の新開孝さん（8月10日「田んぼに生息する動植物の観察」）

10

日 程	内 容	予定参加者
5月 (2日間)	草刈り・草取り 田んぼの拡大作業 用水と畔づくり等の田んぼ復元作業	会員、ボランティア
6月上旬 (2日間)	田植え準備（耕うん、田起こし、代掻き）	会員、ボランティア
21日	田植え直前の準備	会員、ボランティア
22日	手植えによる田植え	一般参加者 会員、ボランティア
7月13日	草取りと環境学習（田んぼ観察を目的としたネイチャーゲーム） ※フィールドビンゴや音いくつ、動物交差点などを実施する	一般参加者 会員、ボランティア
27日	草取りと環境学習（田んぼの雑草のコナギを食べる） ※湯掻いて焼きそば等の具材にする	一般参加者 会員、ボランティア
8月10日	草取りと環境学習（田んぼの生態系調査） ※田んぼに生息する動植物の観察	一般参加者 会員、ボランティア
24日	草取りと環境学習（案山子づくり） ※不要となった衣類等でリユースの実体験をする	一般参加者 会員、ボランティア
10月18日	稻刈り（稻掛け竿等）の準備	会員、ボランティア
19日	手鎌による稻刈り、レンゲの種蒔き	一般参加者 会員、ボランティア
11月1日	足踏み脱穀機・唐箕の準備	会員、ボランティア
2日	脱穀	一般参加者 会員、ボランティア
11月29日	餅つき道具（セイロ・羽釜・臼・杵）の準備	会員、ボランティア
30日	収穫祭（餅つき）	一般参加者 会員、ボランティア

※日程は、天候や米の発育等で変更する場合があります。

※助成が不採択となった場合、8月10日の「田んぼに生息する動植物の観察」は、「田んぼの環境調査」に変更します。

15

一般参加者が参加する活動は午前中（9：00～12：00）とします。ただし、脱穀（11月2日）は作業時間を多く必要とするため、終了予定を15時にしたいと思います。

稻刈り後の田んぼは保全のためレンゲ畠とします。

収穫量によりますが、参加者（参加費相当分）とボランティアで分配したいと思います。

2. 中山間地の荒廃した里山の環境保全再生事業

(1) 妖精の森

2009年から続けている森の学舎裏の放置されている竹林の一部を落葉樹の林に変えて行く活動は、地権者と正式に山林使用協定を結べない事情があるので、他活動で必要となる竹の伐採にとどめます。また、新たに生えてくる竹の除去は続けて行きます。

(2) お地蔵さんの森（森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動）

手入れが行われず放置されている里山と、その里山と隣接している五十鈴川支流のオモボリ谷と菅の谷の合流する沢（松瀬川と称す）を子供たちが入り遊ぶことができる森林づくりを2019年度から実施しています。

整備した里山と松瀬川、そして森の学舎を一体的に活用し、子どもやその保護者を対象とした森林の動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能を知るための体験型環境学習を実施するためのフィールドとして活用します。

また、作業スペースに活用できる廃道と樹木名プレートを探索する場所の草刈りを実施します。

(3) 子どもの森1号地とGOCANの森

昨年度同様、経過観察を続けていきます。

3. 地域の自然環境などを理解してもらうための啓発活動

(1) 春の野草を活用した里山体験（春を楽しもう）

春になって野草の芽吹きに触れることで自然に対して興味・関心を高め、野草の名前を覚え食することで自然の恵みが身近なところにあることを確認します。この活動を通して自然環境を大切に思い守る意識の認識してもらいます。

- ・開催月：2025年3月22日（日曜日）
- ・参加者（予定）：子ども15人、保護者10人（子どもが過半数を超えること）
- ・場所：森の学舎と周辺
- ・助成：子どもゆめ基金（申請予定）
- ・外部講師：成迫平五郎氏（野草観察）

① 野草観察：指導者やスタッフと一緒に森の学舎と周辺を散策し、生息する野草などの説明を受ける。野草の名前や特徴を覚えることで、地域の身近な自然に対する興味・関心を高める。

スタッフと参加者で知識を共有するだけでなく、観察中に話しかけながら交流を図り、屋外での活動となるため指導者の説明が十分に伝わるよう配慮します。

② 参加者で昼食作り：食べることができる野草を食べる分だけ摘んで調理する。野草を食べることで自然の恵みへの感謝の気持ちを認識する。調理それぞれに、スタッフを配置しスムーズな調理の流れに配慮します。

参加者の五感を使った活動するために、受け身の受講とせずスタッフと一緒に調理をして交流を図り印象を強く残すように配慮します。

4. 地場産業の振興、街づくり、人づくり

(1) 地域コミュニティによる耕作放棄地の活用

昨年度の引き続き、一般参加者や地域住民と一緒にになって耕作放棄された田畠を活用した米作りや野菜栽培などを通して考え、地球環境に負荷をかけない自分たちにできる取組への気づきを促し里山や中山間地域の自然景観を復元し、その魅力を発信させていきます。

- ・場 所：北郷黒木地区の耕作放棄地
- ・助成（予定）：連合愛のカンパ

5 耕作放棄地を田畠に戻すには、人手だけでは負担が大きすぎるため機械による作業も必要とな
ってきます。そこで、マイクロショベルカーの活用が必要となります。九州ろうきんの「NPO
事業サポートローン」でマイクロショベルカーの購入費用を借り入れています。その返済原資を
確保するために、「連合愛のカンパ」の申請をしています。

10 土を深くから掘り返すと土中の環境が急激に変わって生態系が壊れてしまので、ただ耕作放棄
地を復活させるのではなく多様な生物が生息できる田んぼを取り戻すことが本来の目的でもある
ため生態系が崩れてしまっては意味がないので、環境への影響をできるだけ小さくするために、
マイクロシェベルカーによるすき込み作業を行います。

15 農作物の収穫がない状況では、生活困窮者の支援はできないので、前年度まで方針に掲げてい
た生活困窮者の支援は、しばらく凍結したいと思います。

15 (2) 古民家再生

20 地域のサードプレイス（環境学習の教室、日常的に大人や子どもが集まる処、防災時の補助的
な避難所、地域の農産物販売所など多様な利用方法があると思われます）として、美郷町北郷黒
木にある築118年の古民家を再生したいと思います。

25 昨年度は、業者による躯体改修概算見積をおこないましたが、クラウドファンディングだけの
寄付金額では、とても賄うことができない高額であったため実施できていませんでした。

この古民家は、柱や床などがシロアリ被害でよって、家全体が歪んでいるので業者による家屋
の躯体修復作業を施して、躯体修復が終わったらワークショップで床や壁などの施工を進めて行
くことがあります。家屋の躯体修復作業にかかる費用は、クラウドファンディングでの資金調達だ
けでなく何らかの公的な補助金を模索していきたいと思います。

30 古民家再生の予算案については、資金調達の目途がたって、クラウドファンディングをスター
トする時点で、計画を立案して会員に提示します。

※サードプレイスとは、仕事に関わる「職場」やプライベートな「家庭」とは異なる3つの居場所を指す言葉です。ただし、それは単に居場所があればサードプレイスになるわけではありません。インフォーマルな公共の空間で、上下関係のない人々が自由に会話を交わすことができるという環境は、人々に自尊心を取り戻させたり精神的なゆとりを与えるのです。サードプレイスの代表例としては、ドイツの居酒屋やイタリアの食堂などであり、人々のコミュニケーション欲を満たす場所として機能しています。コミュニティーのような義務や権利が存在しないのもサードプレイスの特徴です。

30 当面は、休耕田復元プロジェクトの拠点として使用する「そらいろのたね」の修繕等を実施する
ことになると思います。

5. 市民活動の活性化に関する企画、コーディネート事業

35 地域の課題に対して何かの役に立ちたいと思い、地域活動に参画する意向のある人は増えてきて
います。こうした動きに対して行政も、地域の活性化、雇用の確保、行政サービスの補完等の観点
で関心を持っています。しかし、意欲のある人や団体でも、具体的な始め方、仲間や協力者の見つけ
方、必要な知識やスキルの身に付け方等、いくつかのハードルの存在が想定されます。従って、
それらを克服し、参加意欲を実際の行動に結び付けていくような支援の仕組みを地域に構築する
ことの必要性があります。市民活動の活性化に関する企画やコーディネート等、何らか携わること
ができると考えています。

6. 活動の情報発信・啓発のための事業

活動を告知することで活動の参加者を募集し、活動の内容を情報発信することで子どもの森の活動への理解を通して、自然環境の大切さ、地域を良くするための協働への参画を促していきます。

5

(1) Web サイトの運営

子どもの森の活動と自然環境啓発等を、Web ページにて発信していきます。また、Web ページでは発信しづらい細かい情報は、Facebook と Instagram で発信していきます。

10

(2) 機関紙の発行

子どもの森の前年度活動と自然環境啓発等を、機関紙「子どもの森通信 22 号」を発行することで情報発信をします。

15

(3) 事業案内チラシの作成

宮崎県や関係行政機関等の後援を依頼して、それぞれの事業を開催する 2 ヶ月前までに、新聞社等へ参加者募集の記事依頼と、図書館や公民館等の公共機関へのチラシ配布とチラシ設置の依頼を行います。

7. その他目的を達成するために必要な事業

20

(1) ビオトープ

森の学舎のビオトープは、ミニ田んぼ・水路・池とつながった一連の水辺環境で、森の学舎隣の地区集会場にある水タンクからオーバーフローしている水をホースで引いています（地区的集会場の水タンクには、谷沢の水をホースで注いでいる）。ビオトープの活用にあたり必要な改修改善を行なっていきます。水辺に生息する草や水生生物は、人工的に持ってこず自然の復元力に委ねます。

森の学舎で開催する環境学習にて、水辺の生きもの観察や麦作りを行い自然環境の観察等を行なっています。

30

(2) 活動拠点「森の学舎」の活用と整備

2006 年 11 月に、公募により門川町から譲与を受けた旧西門川小学校松瀬分校は、2008 年度に、日本財団と連合愛のカンパからの助成金を受け、会員その他ボランティアによって修繕を進めてきました。また、ボイスカウト等の団体を含めた一般開放、森林や環境等の図書や児童書・絵本を整備して環境文庫の設置などの整備を行なってきました。そして、2009 年度は、セブン-イレブンみどりの基金と門川町まちづくりプレイヤー支援、連合愛のカンパからの助成を受け、五右衛門風呂小屋と釜戸小屋の製作と、薪ストーブの設置、環境関連図書の購入を進めてきました。

行政が絡んでいない民間団体での廃校活用は他に例がなく、森の学舎は廃校になった学校の先駆的な活用例として注目されています。森の学舎と周辺地域との関係も視野に入れ、環境問題を切り口とした地域コミュニティーとしての役割など、廃校の更なる活用も目指していくかなくてはなりません。

2010 年度で、急ぎ必要な森の学舎の整備は終ったと思われます。これからは、どのような整備が必要かを検討しながらの整備を進めていきます。そのための資金として、特別積立金の設定をしています。森の学舎の開放と森の学舎で行なう環境学習の依頼があれば受入をしていきます。

一昨年（2022 年）度は、老朽化した竈小屋と五右衛門風呂小屋を、日本郵便より「年賀寄付金による社会貢献事業助成」を受けて建て替えができました。また、五右衛門風呂 2 号小屋も会員によって建て替えが終了しました。

環境関連図書（環境文庫）の設置をしてから、16 年が経過しています。その間、増えた図書の整備を行っていません。今年度は、蔵書している図書の整備を行えればと思います。

45

50

初夏と夏と秋にグランドと周辺の草刈りを実施します。

草刈り等の森の学舎整備と蔵書している図書の整備及び清掃を、4月に2日間、5月に3日間、8月に2日間、9月に2日間、12月に2日間、実施したいと思います。

5 (3) 子どもの森が加盟する団体

今年度も引き続き「みやざき森づくりボランティア協議会」に、団体会員として加盟します。同協議会での総会や研修会への参加をすることで、同じ森づくりや環境問題に取り組んでいる団体との交流ができます。また、同協議会が開催する研修会では、森づくり活動への考え方や森林作業の学習等を学べます。宮崎県内の森づくりを実施している団体の相互協力と交流、森づくりの研修が、本協議会の活動の中心となっています。可能な限り協議会が開催する総会や研修への参加や協力をていきます。

同協議会の総会が6月15日に開催され、年間に活動が決定されます。現時点で総会に、提案される下記の活動案があります。森の学舎の利用が2回計画されています。

椿油	種を収穫	場所：ロキシーヒル 日時：10/26(日) 10:00～14:00
	油搾り	場所：森の学舎（子どもの森） 日時：12/7(日) 10:00～15:00
刈払機 メンテナンスと実技		場所：森の学舎（子どもの森） 日時：7/12(土) 10:00～15:00 ※講師の手配で日程の変更あり

15 (4) 黄色いレシートキャンペーン

黄色いレシートキャンペーン投函ボックスは、一昨年（2022年）度から、イオングループで1店舗のみの登録となつたため「イオン日向店」にお願いしています。黄色いレシート発行の日の11日が土日または、祝日となる日を選んで、イオン日向店においてのキャンペーン協力に参加したいと思います。今年度は、3日間のキャンペーン協力を予定したいと思います。

20 (5) 理事会の開催

定期的に理事会を開催して、活動の詳細内容の決定や確認、次年度の活動計画等を議論しています。

25 主 場 所：そらいろのたね

時 間：19時30分から

日付（予定）：5/7（月）、6/16（月）、10/6（月）、2026/3/16（月）、4/13（月）

30 活動の連絡や確認事項だけの議題であれば、活動や各準備の後に実施をしていきます。

8. 助成について

今年度の活動への助成金は下表のとおりです。

助成名	助成元	助成事業	助成額	備考
子どもゆめ基金	国立青少年教育振興機構	四季をまるごと体験 e.c oスクール	271千円 (申請予定)	2次募集で申請
		春を楽しもう	130千円 (申請予定)	2次募集で申請
高原環境財団助成事業	高原環境財団	休耕田復元プロジェクト	449千円（申請中） ※7月に採否決定	
連合愛のカンパ	日本労働組合 総連合会宮崎 県連合会	地域コミュニティによる耕作放棄地の活用と生活困窮者の支援	400千円（申請中） ※8月に採否決定	一昨年度から次年度の3年間で計120万円を継続申請する予定

9. 次年（2026年）度以降の活動

昨年までの四季をまるごと体験e c oスクールは、麦蒔きから麦刈りまでの11月から翌年5月までの実施期間とします。期間中はパン作りのための小麦粉・酵母・塩・バター作りを入れて食を切り口にした活動内容に特化したいと思います。

川をフィールドとする夏の活動は、7月末から8月初めになります。川をフィールドにする活動を複数計画すると、台風による川の増水や雨による延期する危険性が大きく、延期実施に対応できないため、次年度以降も一つに絞ります。

「イカダによる河川清掃と生き物調査」と「川でのネイチャーゲームを主とする河川の大切さ」の二つの活動を交互開催したいと思います。

森づくりは、「お地蔵さんの森」は、樹木伐採や沢への昇降道の整備が2011年度に終了しているので、自然体験活動でのフィールドとしての活動とメンテナンス的整備を実施して行きます。

「妖精の森」は、生えてくる竹の伐採を実施し、「子どもの森1号地」と「GOCANの森」は、引き続き、経過観察をして行きます。

また、杉を伐採した跡地で広葉樹の植樹が可能な山があったら、宮崎県森林環境税の森林づくり活動支援を活用して、地主と協議を進めながら第五の森づくり活動も実施したいと思っています。

古民家再生は、資金が揃えば、業者による家屋修復は実施できると思いますが、ワークショップによる室内再生を今年度中に完成させることは難しいので、次年度も検討を続けていきます。

市民活動の活性化に関わる企画として、復元した田んぼのある北郷黒木にて、地域の方々と一緒にになって、ひまわり畠による中山間地域の景観保全活動を進めていきたいと思います。

今年までは、北郷黒木地区による定住戦略事業の一つとして、ひまわり畠の活動をしています。25 今年度で定住戦略事業が終了することになります。この事業には、横山理事が参加していて、そのノウハウが蓄えられています。

市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業、そして中山間地域の環境保全と景観保全を進めるために、花による景観事業の助成金を活用して、地域住民に協力していきます。

ひまわり畠の活動は、これまでの地域戦略活動として3年間継続されており地域住民も積極的になると思われます。

休耕田の復元は、何らかの環境保全・環境学習の助成金を申請しながら続けていきたいと思います。助成金の申請をしても不採択になることもあります。その場合は、助成金がない状況でも続けていきます。また、休耕田を復元した田んぼの稲刈り後のレンゲを使った活動も実施したいと考えています。

地域コミュニティーによる耕作放棄地の活用では、原野に植栽した実のなる樹木の捕植や草刈りを実施して、将来的には果樹や野菜を育て収穫できる体験農園とすることを進めて、収穫した果実を加工して地域活性化となる地域独自の6次産業を実現させたいと思います。

40 他に、将来の自然体験活動として、ネイチャー工作の一環となるコケ玉・樹木カレンダー・門松づくり、つる工作等の特色ある計画を練っていきます。

議案Ⅱ. 2025年度活動計画書（案）

2025年度 特定非営利活動にかかる活動計画書

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

科 目	金額	備考
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	58,000	11人×5,000、特別:3人×1,000
賛助会員受取会費	0	0人
2. 受取寄附金		
受取寄附金	70,000	イオン黄色いレシート、ろうきんNPO寄附金、個人寄附 他
3. 受取助成金等		
受取助成金	1,250,000	子どもゆめ基金、高原環境財団、連合愛のカンパ
4. 事業収益		
自主事業収益	173,100	プログラム3種、森の学舎貸料
5. その他収益		
雑収入	10	預金利息 他
経常収益計	1,551,110	
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
賃金(有償ボランティア)	230,000	プログラム3種
人件費計	230,000	
(2) その他経費		
修繕費	4,500	地域コミュニティーの推進
諸謝金	78,000	プログラム3種
印刷製本費	50,000	プログラム3種のチラシ印刷(業者委託)
旅費交通費	120,600	プログラム3種
通信運搬費	15,000	プログラム3種
消耗品費	400,800	プログラム3種 他
損害保険料	25,200	プログラム3種
広告宣伝費	44,000	春を楽しもう(フリーペーパー)
減価償却費	237,000	マイクロショベルカー
その他経費計	975,100	
事業費計	1,205,100	
2. 管理費		
(1) 人件費		
賃金(有償ボランティア)	0	
人件費計	0	
(2) その他経費		
旅費交通費	9,000	森づくりボランティア協議会の総会・研修の出席 他
通信運搬費	53,500	助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	30,000	事務局用PC、文房具 他
修繕費	22,000	森の学舎
諸会費	3,000	みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	5,000	理事会他
研修費	5,000	会員の各種研修参加
租税公課	3,000	印紙(助成金申請)他
施設管理費	180,000	森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他
Web管理費	20,100	ドメイン、レンタルサーバー(3年分)
雑費	8,000	昨年度子どもゆめ基金助成金減額
支払利息	15,000	マイクロショベルカー借入金
その他経費計	353,600	
管理費計	353,600	
経常費用計	1,558,700	
当期正味財産増減額	△7,590	
前期繰越正味財産額	1,834,815	
次期繰越正味財産額	1,827,225	目的積立1,000,000円含む

プログラム3種: ecoスクール(パンづくり編)・春を楽しもう・休耕田復元プロジェクト

ボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、宮崎県の最低賃金にて計上している。

管理費のボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、計上していない。

- 5 ※会費 正会員: 5,000円(ただし特別正会員は1,000円) 賛助会員: 5,000円(ただし特別賛助会員は1,000円)
 特別正会員とは、社会に出る前の大学生や専門学校生と、同一世帯で2人以降の正会員で、総会での議決権など、通常の正会員と同じ権利を有します。特別賛助会員とは、同一世帯で2人以降の賛助会員です。
 ※目的積立：将来の大規模な森の学舎修繕に備えた積立をおこないます。現在、雨漏りがあるためシートで応急処置をしていますが、修繕費が認められる助成金等にて雨漏り修繕をしたいと考えています。その時に、目的積立を取り崩して自己資金部分に充当させます。

2025度 事業別活動計画書

科 目	ecoスクール	春を楽しもう	休耕田復元 プロジェクト	地域コミュニティー の推進	森林整備	森の学舎整 備	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益									
1. 受取会費									
正会員受取会費	--	--	--	--	--	--	58,000	58,000	
賛助会員受取会費	--	--	--	--	--	--	0	0	
2. 受取寄附金									
受取寄附金	--	--	--	--	--	--	70,000	70,000	
3. 受取助成金等									
受取助成金	271,000	130,000	449,000	400,000	--	--	1,250,000	--	1,250,000
4. 事業収益									
自主事業収益	60,000	22,500	30,600	--	--	--	113,100	60,000	173,100
5. その他収益									
雑収入	--	--	--	--	--	--	--	10	10
経常収益計	331,000	152,500	479,600	400,000	0	0	1,363,100	188,010	1,551,110
II 経常費用									0
(1)人件費									
賃金	123,000	17,000	90,000	--	--	--	230,000	--	230,000
人件費計	123,000	17,000	90,000	0	0	0	230,000	0	230,000
(2)その他経費									0
修繕費	--	--	--	--	--	4,500	4,500	22,000	26,500
諸謝金	21,000	13,000	44,000	--	--	--	78,000	--	78,000
印刷製本費	20,000	10,000	20,000	--	--	--	50,000	--	50,000
旅費交通費	53,900	10,000	56,700	--	--	--	120,600	9,000	129,600
通信運搬費	10,000	5,000	--	--	--	--	15,000	53,500	68,500
消耗品費	89,100	42,000	255,700	6,500	0	7,500	400,800	30,000	430,800
諸会費	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
会議費	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
研修費	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
損害保険料	9,300	1,500	14,400	--	--	--	25,200	--	25,200
租税公課	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
施設管理費	--	--	--	--	--	--	--	180,000	180,000
Web運営費	--	--	--	--	--	--	--	20,100	20,100
広告宣伝費	--	44,000	--	--	--	--	44,000	--	44,000
雑費	--	--	--	--	--	--	--	8,000	8,000
支払利息	--	--	--	--	--	--	--	15,000	15,000
減価償却費	--	--	--	237,000	--	--	237,000	--	237,000
その他経費計	203,300	125,500	390,800	243,500	0	12,000	975,100	353,600	1,328,700
経常費用計	326,300	142,500	480,800	243,500	0	12,000	1,205,100	353,600	1,558,700
当期経常増減額	4,700	10,000	△ 1,200	156,500	0	△ 12,000	158,000	△ 165,590	△ 7,590

*20名以上の参加者がないとボランティア保険の対象とならないため、一般参加者がいるプログラム（ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復元プロジェクト）以外の活動への参加での事故やケガについては自己責任（ご自身の加入している損害保険等での対応）でお願いします。

*地域コミュニティーの推進に係る収支が発生する場合には、補助科目（活動名）を増やして会計処理していきます。

5

議案III. 役員改選（案）

役職	氏名	就任期間	報酬	備考
理事長	横山 謙一			
副理事長	鵜戸 隆二			
事務局担当理事	横山 純子			
理事	井澤 光一 加納 七五三 江口 須美代	2025(令和7)年4月1日 ～2027(令和9)年3月31日	なし	重任
監事	佐藤 伸光			

2025年度活動カレンダー(予定)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	昭	水			
木	金	憲	み	こ	振	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		
4月																														(予備)麦刈り/脱穀 学舎整備→30		
5月	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	昭	水
6月																															(予備)麦刈り/脱穀 学舎整備	
7月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	昭	水		
8月	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	山	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
9月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	敬	火	水	木	金	土	日	月	秋	水	木	金	土	日	月	火	水	
10月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	木	金	土	日	ス	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	
11月	土	日	文	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	勤	振	火	水	木	金	土	日	月	火
12月	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
2026年1月	元	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	成	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
2月	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	建	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	天	火	水	木	金	土	日	月	火	
3月	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	春	土	日	月	春を楽しもう								
4月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	昭	木			
5月	金	土	憲	み	こ	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	(予備)⑥ecoスクール	

ecoスクール：(パンづくり編)食育と環境の学習 春を楽しもう・春の環境学習 田プロ(休耕田復元プロジェクト) 麦刈り/脱穀:昨年度四季をまるごと体験ecoスクール残活動
学舎整備:森の学舎と周辺の草刈りと学舎施設修繕等 妖精の森:森の学舎の裏山の竹伐採
その他事務局:WebサイトとSNSの運用、子どもの森通信の発行(6月)、各プログラムの参加者募集
森の学舎開放は、事務局で対応



事務局/森の学舎：宮崎県東臼杵郡門川町大字川内字イカダ場 3412 番地 1

TEL 0982-63-0009 携帯：080-2696-5180

<https://www.kodomonomori.info>

info20@kodomonomori.info

facebook <https://www.facebook.com/npo.kodomonomori>

Instagram https://www.instagram.com/kodomonomori_2003npo

協働創出市サイト <http://dp25242621.lolipop.jp/kyoudou>